



3 宜名真トンネル
 1982(昭和57)年3月に完成した全長1045mの沖縄本島で最も長いトンネル。それまでは崖上の戻る道を通る、国道58号最後の狭道でした。工事は両側から茅打ちパンタの下を1km以上に渡ってくりぬき、三年がかりで完成しました。



2 戻る道
 宜名真トンネルの上にある岩の裂け目を通る約100mの狭道。名称は、道の途中で人が出会うと後から来た人が道を譲り、戻らねばならなかったことに由来します。現在は車1台通れるほどの道幅です。



ゴジラ岩



1 国道58号起点の碑
 一般国道58号は1972(昭和47)年5月15日の本土復帰に伴い国道に指定されました。58号は鹿児島県鹿児島市から海上を渡り種子島、奄美大島を経由して沖縄県那覇市明治橋が終点となっています。沖縄県内に初めて上陸する地点、国頭村宇嘉新田541-1にはモニュメントが建てられています。



4 遮断機(事前交通規制区間)
 やんばるの道は、ほとんどが海岸線にあり、台風や大雨の異常気象時には、海から高波による越波や崖くずれがあります。そのような災害から通行車両を守るために事前に道路に遮断機を降ろして通交止めし、未然に事故を防ぎます。



9 奥間の一本松
 国頭村奥間の国道58号の脇に立っている一本の松の木。地元の人はこの木を「一本松」と呼び親しまれています。この松の木は道路整備により撤去される予定でしたが、交差点計画の一部を変更して守られたものです。



エコパネル設置
 小動物を交通事故から守るため、道路侵入防止のためのパネルが設置されています

国頭村なるほどマップ



5 座津武トンネル
 座津武トンネルは、国道58号起点から数えて3番目のトンネルで、切り立った絶壁の下を通っています。このトンネルは落石から車を守るための防護ネットや、監視システムがあります。



6 旧座津武橋
 旧座津武橋は1936(昭和11)年に架けられたコンクリート造りの橋です。海の側の険しい環境の中、37年の間人々の生活を支えてきましたが、1973(昭和48)年に現在の新しい橋が造られ、その役目を終えました。現在も旧道にその姿をみることが出来ます。



10 道の駅ゆいゆい国頭
 国頭村の特産品を販売する観光物産センターをはじめ、レストラン、企画展示室等があります。国頭の自然を再現したジオラマや、トレッキング等を申し込める国頭村ツーリズム協会の案内カウンターもあり、情報交換の場となっています。



7 与那大橋
 与那大橋は1935(昭和10)年頃、与那の岬を廻る県道の整備に伴い設置されたものです。海沿いにあり、波が高い日には高波をかぶる危険な道路でした。その後、1973(昭和48)年の与那トンネル開通により、安全な道路が整備されました。現在は使用されていませんが、新与那トンネルの北側から向かって右側にその姿をみることが出来ます。



8 与那トンネル
 1973(昭和48)年に建設された旧与那トンネルに替わり1993(平成5)年に完成した新与那トンネルは全長559mで、前のトンネルの3.5倍もあります。現在、新旧のトンネルが並んでおり、旧トンネルの前は公園になっています。

※ 〇: 歌碑の番号は文字碑の地図の番号と対応しています。